

区議会NEWS



江戸川区議会議員 **田中 寿一**

東京都江戸川区船堀3-1-3 TEL.5679-0413 / FAX.3689-1082 www.juichi.biz

平成29年第1回定例会 が開催されました。

2/21～3/24にかけて
「平成29年第1回定例会」が
開催されました。

2/23には区議会自民党を代
表し、代表質問に立ちました。
質問の概要についてお知らせい
たします。

また会期中には新年度予算案に
ついて審議する「予算特別委員
会」が開催されたところです。
日頃、皆さまから頂く区政への
思いを踏まえ、連日にわたり、
質問・提案を重ねました。

田中寿一（じゅいち） プロフィール

昭和54年10月1日、江戸川区船
堀生まれ／区立船堀幼稚園・
区立船堀小学校・区立松涛中学
校・私立成城高校・学習院大学
法学部政治学科卒／江戸川区に
て不動産業に従事

平成19年江戸川区議会議員
初当選（現在3期）

区議会自由民主党幹事長
（平成27年5月～）



※ 本会議代表質問

1. 新年度予算案の編成方針・ 中長期にわたる財政運営について

本区の平成29年度予算は、一般会計は前年度比4.1%増の2,403億円、各特別会計を含めた総額も前年度比2.8%増の3,728億円となりました。**新規33事業・拡充52事業の積極予算**となっており、児童相談所の設置に係る設計委託費をはじめとして、子どもの成長支援の拡充、保育園の整備、地域包括ケアシステムの充実、3年後に迫ったオリンピック・パラリンピック開催に向けた取組み、中小企業の経営改善借換融資の新設など、区政の現状と将来を、

的確に捉えた予算となっています。

こうした時代に即した施策も、強固な財政基盤なくして展開はできません。本区のこれまでの財政運営を振り返れば、決して順風満帆という訳ではありませんでした。平成11年には、区債残高が基金残高を526億円も上回るという危機に直面、人件費の削減や民間活力の導入を中心に積極的な行財政改革を断行し、財政状況を好転させました。また、リーマンショックの影響を受けた平成20年以降には、3年間で400億円もの基金の取り崩しを余儀なくされ、基金の底が見え始めた危機に際しては、大幅な施策の見直しの断行により、世界的金融危機による荒波を乗り越えました。その後も健全財政堅持の姿勢は貫かれ、結果として、平成27年度末における主要6基金の残高は1,482億円である一方、区債残高は137億円、経常収支比率も、平成27年度決算において73.8%と、適正水準を維持しています。



しかし、今後の区政に目を転じてみると、高齢化への対応や、学校・公共施設の建替え、再開発事業等の都市の更新、災害対策の推進など、引き続き、健全財政堅持への適切な舵取りに迫られている状況です。27年度から導入された新公会計制度のメリットも最大限活かしながら、強固で安定した財政基盤を堅持してゆかなければなりません。

2. 区独自の「児童相談所」開設に向け、着実な推進を！

平成22年の児童虐待死事件という痛恨の思いを抱き続けてきた私たち江戸川区民にとって、区として独自に児童相談所を設置することは悲願です。一方、人材育成や広域連携、財源の問題等、乗り越えるべき課題が数多く存在するのも事実です。虐待によって命を落とすことは2度とあってはならないという区民総意の決意のもと、開設に向けた着実な推進を要望しました。



3. 2020東京オリンピック・パラリンピック 「ホストタウン」登録を！

現在、国では、2020年大会開催に向け、スポーツ立国・グローバル化の推進・地域の活性化・観光振興等に資する観点から、参加する国や地域との人的・経済的・文化的

な相互交流を図る地方公共団体を、ホストタウンとして全国各地に広げる取組みを進めています。

東京オリンピック・パラリンピックの開催は、障害の有無に関わらず、子どもからお年寄りまで、誰もが世界に目を向け、世界を感じる、又とない機会です。合わせて、我が国や地域の魅力を見つめ直し、再認識する絶好の機会です。次世代を担う子どもたちにとっては、グローバルな世界を等身大に感じ、夢や希望を膨らませ、新たな歩みを始める、最良のチャンスになり得るものです。



ホストタウンとして登録し、大会開催までの期間に、スポーツ・歴史・文化・共生社会の重要性を学ぶ。大会開催中は、相手国関係者をゲストに、ウェルカムパーティーを開催し、その国の選手を応援し、大会成功に向けた当事者として参画する。大会後は、双方の人的交流を深め、あらゆる側面で本区の国際化が深まる。

このように、**スポーツ・文化・産業・観光・グローバル化**など多様な面から**区政の進展が期待される「ホストタウン」登録について提案**しました。

4. 街の魅力創出と時代を捉えた交通ビジョンが 一体となった「都市マスタープラン」への改定を！

現在庁内で進められている**都市マスタープランの改定は、江戸川区の20年先の将来図を描く重要な作業**です。したがって、本区の街づくりを取り巻く課題を把握するとともに、それら諸課題の解消に止まることなく、住みたい街・住み続けたい街として、強い魅力が発信される街「江戸川区」の創造に向けた、明確なビジョンを描いてゆかなければなりません。そのためには、まず、本区を俯瞰的に捉え、各地区の有する、ここにしかないという特色を見つめ直し、それぞれの地域がそれらを活かした街づくりを進められるよう、具体性のある計画としてゆくことが必要です。そして、その特色に合わせて、区役所本庁舎を中心に大型公共施設を適切に配置しながら、それぞれの

地区ごとにおける明確なコンセプトを定め、魅力あふれる街の将来図を描いてゆくことが求められます。例えば、船堀地区なら新庁舎、小岩地区なら商業、鹿骨地区なら農業、葛西地区なら水と緑とオリンピックレガシーなど、地区ごとの強みをコンセプトとし、その魅力を更に高めて発信させてゆくことが必要です。これは、ひいては、本区のグランドデザインの構築となるものです。





※ 予算特別委員会

合わせて、これら地区ごとの魅力創出とともに重要になるのが、区内を体系的につなぐ「交通ビジョン」です。まず、区の中心的存在である本庁舎が移転されれば、バス交通など公共交通のあり方をゼロベースで見直すことが求められます。その他大型公共施設の配置や、明確なコンセプトのもと魅力を増した各地区へのアクセスも、十分に確保されなければなりません。

また、都市の更新が求められる時代にあって、現在本区では、JR小岩駅周辺地区や平井駅付近地区で再開発事業などが進められており、今後はその他各駅周辺も更新の必要に迫られてゆくこととなります

ですが、一方で、その外側に位置する住居系の地域を、各駅周辺地区と適切にリンクさせなければ、再開発などの進む駅前地区との格差が生まれ、人口の偏在性や、コミュニティの崩壊、空き家等の問題が、いっそう顕在化する恐れがあり、交通不便地域の解消はもちろん、拠点間の連携が強化された地域交通の見直しが不可欠です。

高齢化社会の到来という観点からも、交通のあり方を捉え直すことは重要です。高齢者の社会参加を促すことは、生きがいの創出につながり、ひいては健康寿命の延伸につながることから、高齢者にとって利用しやすい移動手段の確保という視点から、現在の交通インフラが応えられるものかどうか、十分検証してゆく必要があります。

以上のことを踏まえ、**地区ごとの魅力と具体性のある将来図、そして、俯瞰的な見地から、それらを体系的につなぐとともに、時代の要請にも即している交通ビジョン、これらが一体的に包括された都市マスタープランへ改定すべきと提案**しました。



“ 第3回 新川さくらまつり ” 開催のお知らせ



日 時：4月2日（日）午前9時30分～午後3時

場 所：新川さくら館およびその周辺（船堀7-15-12）

当日は9時からウォーキング大会も開催されます（集合：宇喜田小学校）